

本島魚場ニ關シテ
別紙御返
明治三十九年八月四日

密受第二一八號
八月十四日
八月十四日

民甲第九二三號

本島魚場ニ關シテ
民政長官宛ニテ別紙寫シ通請願書
提出ノ虞本日付ヲ以テ別紙寫シ通
民政長官ヨリ却下致度ニ付此段及
報 告 候 也

明治三十九年八月四日

九月十四日

第四號

本島魚場ニ關シテ
別紙御返
明治三十九年八月四日

密受第1733號

別紙御
濟御返
明治三十九

本島魚場

奉 命 書 寫 之 旨 候 事

目録 第七号

受 密 受 第 二 一 八 號 八月十日 八月十四日

民 第 九 二 三 號 前

本島漁場ニ關シテニビイ、セメノフヨリ
民政長官宛ニテ別帝寫ノ通請願書
提出ノ處本日付ヲ以テ別帝寫ノ通
民政長官ヨリ却下致候ニ付此段及

報 告 候 也

明治三十九年八月四日

九月十四日

樺太守備隊司令官楠瀬幸彦



陸軍大臣寺内正毅殿

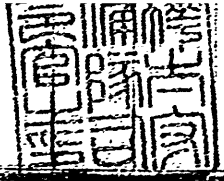
受 密 第 1733 號

別紙御
濟御返
明治三十

林 野 稿



ヨリ
書通及



6181

機密 受第1733號

明治三十九年八月二十九日接受

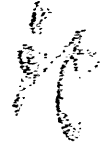
主管取調課 あり

別紙御廻覽ニ供シ候間用
濟御返却相成度候也

明治三十九年八月十九日

孝母院 御書

林外務大臣殿



陸軍省

子

2-6TET

樺太民政署指令乙第大五九號

ジー・ペー・デンビー

セメノフ

本年七月七日付請願セメノフデンビー商會ノ本島
漢場ニ関スル件ハポーツマウス條約第十條ノ規定ニ
誤当セズ又露國政府ガ審テセメノフデンビー商會
ニ其ハル漢業詩可狀膠本ニ記載スルガ如キ性質
ヲ有スル漢業ニ対シテハ其修之ヲ繼續許可スマキ
モノニアラズ隨テ之ヲ買收スルノ限リニ在ラス

明治三十九年八月四日

樺太民政署民政長官熊谷喜一郎

陸

軍

拜啓陳者自分等、樺太漁場ニ関スル證明
 書及其他ノ諸書類ノ寫ヲ御廳ニ差付ス心
 キ旨過日在京我公使ヨリ唇面ヲ以テ指圖
 有之矣。兼申露國政府ヨリ漁場使用ノ許
 可ヲ得タル露國臣民ニ漁場貸渡ノ先有權
 ヲ御附具セラシタル事ヲ昨年八月七日樺
 太民政廳ニ於テ御公布ニ相成ヌ趣吾公使
 ニ於テ此頃聞知セシニ就キ自分等ノ所有
 權非ニ其他ノ權利ヲ障害スルガ如キ右様
 ノ御所置ニ對シ我公使ヨリ直ニ貴國外務
 省ニ抗議申立置ヌ趣ヲ毛通知有之矣。就
 ハ自分等ニ於テハ條約ノ慣習又ハ先例ニ

陸
 軍

コリ自分等ノ當然有スル權利ヲ奪取スル
 ガ如キ右公布ニ對シテ自分等ニ於テ最
 モ強硬ナル抗議致スベク矣尙御承了被下
 度茲ニ為念御注意申上矣
 右御公布日附ノ當時ハ未ダホリツマウス平
 和會議開始前ナレバ該御公布ハ自分等ニ
 於テ知ルベキ管ナリ又之ヲ承認スベキ理
 由モ無之矣故ニ孰ノ点ニシテモ自分等ハ
 右御公布ニ基キ手續セザリシ責ニ任スベ
 キ何等理由モ無之矣故ニ露國臣民等自己
 所有ノ財産ニ對シ入札スル事ヲ御許可相成
 美稱大民政廳ノ寛仁ナル御大度ヲ自分等
 ノ始メ知リタルハ實ニ前記吾公使ノ書

面ヲ受取タル後ニ御座矣

過般日露間ニ生セシ煩雜ナル諸問題ヲ迅

速ナル御解決ニヨリテ貴国政府ハ世界的

大名譽ヲ博サレ矣而テ其得タル世界的ノ

大名譽ハ畢竟寛大ナル精神ニ基クモノト

存ジ矣然ルニ吾等ニ對スル御廳其後ノ御

行為ハ聊モ右ノ精神ヲ御斟酌ナキ様・見

受ラレ矣ノ此カ自尔等ニ幾干ナリトモ損害

ヲ蒙ラレ若クハ損害賠償ノ要求ニルヲ餘

義ナカリレメタルハ一ニ責廳ノ責任ニ歸ス

ル儼ニ有之矣此ニ就テハ聊惡意申述度ト存

矣

第一 吾等ノ財産保護ノ為該島ニ幾ニタル吾

代理人ニ上陸ヲ允許ナカリシ事

第二、凡テノ先例ニ反シ條約批准後日本臣民

ニ君等ノ財産ヲ貸渡ス事ノ御所置

昨年九月五日ポーワマウスニテ調印シタル條約

后中ニ擬令之迄通り自右等事業繼續ノ權利ヲ自

右等ノ為ニ確定スル條項ナキニシテモ貴廳カ共

等ノ所有地建物及其他ノ私有財産ノ長期使用

ノ許アルヲ知リ乍ラ差押ハ亦ハ没収スル等ノ

御所置ハ決シテ正當ナル事ト思考致難矣

戦後同モナク自右等ノ財産物件ヲ管理セシ

ムルノ目的ニテ遣出セル代理人ニテ而テ日本

人ニシテ日本政府ヨリ發シタル旅行券ヲ許認

層等支シタル必要ナル書類ヲ定シテ具備シ

夕人者方代理人ヲ之ニ近接セシメザル耳ナラズ
 只一回ノ上陸ヲモ御許可ナク而モ斯ル残骸ナ
 ル御所置ニ対シ何等其理由ヲ御垂示ナク其結
 果ヤ莫大ナル貴重財産ハ盗マレシカ将又如
 何相成美ヒレカ逸ニ損失ニ歸シ申渡儀ヲ之
 等不條理ナル御所置ニ対シテハ當然貴廳及日
 本政府ガ其責任ヲ負フベキモノト存矣

此不條理ナル御所置ニ對シテハ當方ニテハ常ニ
 可及的穩候ナル方法ヲ以テ貴國政府ニ對スル希
 望ニテ現ニ外務省ハモ申立置至ニ其何等ノ御
 解決ニモ接セ不且ツ左者ニテハ未分何等ノ御方針
 ヲ御取相成中御決決無之如斯徹頭徹尾曖昧ナ
 ル御政果ナルヤニ見受ケテラレ申矣

七

七

昨年九月中ニハ貴廳ハ正シク吾代理ノ上陸
 シテ利息ヲ保護スル事ヲ御許ナカリシ故事
 實見之上ニ於テ自分等財産ヲ差押メタル事
 御座矣

尚三月ニ至リテ貴廳ヨリ吾々所有ニ係ル
 建物漁船網等ヲ貴方ニ於テ貸出シタル人
 々ニ買取却スルカ或ハ四月十日迄ニ之等ヲ他所
 ニ移轉スルニ非スムハ賠償ナラシテ總テ之
 等ヲ没収スルキ旨ノ御通達ヲ拜受仕矣

現今自分等ノ漁場ヲ使用シ居ル人々等ノ
 取結ビタル契約存中ニ自分等ハ餘義ナク
 前記財産物件ヲ賣却スル場合ニ立至ル事
 際ニハ或一定ノ價格以上ニ買受ケタル事

二就テ嚴重ナル制裁ヲ受リベキ條件ヲ附シ
 タル換言スレハ前記財産ノ没收セラルト
 右トニ不拘幾何程ノ廉價ニテモ令人等ノ
 任意ノ價格ニテ買収スベキ條件附ノ契約
 旨ヲ授手スル迄ハ何故ニ自分等ニ於テハ
 特ニ令人等ニ限りテ買却セザル可ラサルヤ
 其理由ヲ解スルニ甚ニ申矣、然ルニ熊谷氏
 ノ御着京後以上諸物件ノ賣却ヲ強制サルベ
 キ事カ覺束ナキト漢期ヲ失スル恐アル事令
 人等モ發見スルニ及ビ自分方ノ建物、漢船等
 ヲ使用スル事ニ就テ自分等ト相淡、上何等
 取極方ノ必要ナル場合ニ立至リ茲ニ忽チ事
 實ノ内容暴露仕矣

自分方ニ於テモ左人等ノ必要トスル物件ハ
 素ヨリ漸次毀損スル事ニ承知致辰且又目下
 ノ所蓄方ニ於テ之ヲ使用スル事ニ相不叶矣マ、
 狭ク左人等、希望ヲ容レ漢期ノ終末迄ホ完
 全ニ残リ居ル當方、漢具、何等ノ部分ニテモ
 自由ニ使用スル事ヲ合意ノ上左人等ヲ之等
 物件ノ管理者トスル事、契約ヲ締結シ此ノ
 特典ニ對シテ左人等ハ約ニ万圓ヲ自分方ニ納
 ムル事ニ合意シテ右ノ金子ハ前金ニテ直ニ納收
 仕矣

此領議、依見前記ノ諸物件引渡ノ為禱
 島一人ヲ遣出仕矣右ハ或範圍内迄ハ為シ得
 タレドモ該諸物件ハ後收セラレタルニテ當時

取ニ日本政府ニ屬スル事ヲ記載シタル證書ヲ
 民政廳ヨリ彼等ニ渡サレタル故ヲ以テ同モナク
 差止ラレ申矣其カ為右自分方代理人ハ前記公
 書ヲ持テテ空シク歸函スルノ外無ク是レ為當
 時自分方ヨリハ又々東京へ返議ヲ申送矣。然レニ
 自分方右雇人カ歸函シテ右約三回同後釋左民
 政廳ハ諺旨ヲ撤回シ且ソ自分方所有財産ハ當時
 尙調査中ニアリテ後収シタル意味ニハ非ザル上且
 記載シタル公書ヲ貴廳ヨリ接手任リ一覽ヲ喫
 レ申矣。又勿論サカレシ官廳ノ如斯保證ヤ乞
 責任政界ノ有様ニテハ其事ニ就キテハ之以上ノ行
 動ハ多分又ブ以無効ノ使ト相成可キ事ト
 存矣。一再該島へ代理ヲ遣出スル等ノ儀ハ

自方方ニ於テ為シ難キ事ニ至ヒシ

今ニ於テ自方方ニ於ケル当期中ニ蒙リタル
損害概畧貳拾六万圓ノ巨額ニ相違スル要債
ヲ詳細ニ提出スル前自方方ノ許可状ノ證明
レタル字ヲ費下ニ提出シテ左記ニ項ノ熟力ニ
對シテ何卒御確答ヲ佐ハラシム事ノ御好意ヲ
請フノ外至之矣

第一、費下ニ於テハポーワマウス條約第十條ヲ乞

視シ賠償ナラシム自方方ノ諸物件ヲ没收サ

ル、御所存ナルヤ

第二、自方等当期中、損害ヲ亦償シ償賜ヲ返

産シ自方方ノ許可條件ニ基キ従前ノ通り

使用繼續ヲ御許可相成ヘキヤ否、

第三

双方合意ノ條件ニテ自合等ノ權利ヲ
御買収社下本件ニ就テ終局ノ御處理ヲ

社下下ハキヤ

終ニ臨ミテ自合等ハ若シ貴下ニ於テ第三項ノ

擔擧條件ヲ御受理ニ相成ヌハ自合方ハ此ノ

一ヶケシラマレシコ西氏ノ委任状ヲ所有致居ヌ

同合等ノ許可ニ関スル類ヲ追テ提出シ

許可ヲ得タル露國人ニ付テ樺太漢業問題ノ

全局ヲ一時ニ統括シ得ルニ任置ニ至ケ居リヌ

事ヲ附言化ヌ同御承知下社度ヌ

往事ハ姑ク措キ自合等ノ利益ニ関シ出来得ル

限適宜ノ方法ニテ充分貴意ニ應ジ度此覚悟ニ

御社並同趣々ノ御返事御待申上ヌ
敬具

御社
敬具

明治二十九年七月

樺太民政廳長官殿

貴下

セー
メ
ノ
フ
シ
ー
ロ
ー
テ
レ
マ
ー

契約書

千九百年五月十五日「サガレン」嶋軍務知事陸
 軍少將「リヤブ」ノ「ハ」閣議決定ノ上、千八百九
 十八年六月二十六日勅裁ヲ経タル規定ニ基
 ク同年七月十二日附農務国有財産啓省農務
 局第一一〇号ノ令達ニ準據シ「セメ」ノ「フ、イ、デ」
 「シ」高會ノ代表者タル「セメ」ノ「フ、イ、デ」
 結ス

一、「ウラ」シ「オ」ス「ト」
 「タ」コ「レ」ボ「岬」ト「フ」ハ「イ」コ「サ」グ「ス」岬同ノ村落ニ於テ「左」記ノ「貳」
 拾壹個取ノ地區全面積參拾貳「デ」シ「ヤ」チ「ナ」千貳
 百參拾人平方「サ」セ「シ」海岸線貳千七百八拾「サ」セ「シ」
 千九百年一月ヨリ向「フ」拾「年」同「奥」傍及水産業ノ為メ

陸 尾

貸付ス

一、バイユガブス	面積	一デシヤキナハ六五平方サセシ	海岸線	一三八サセシ
二、トクタレ	左	一デシヤキナ		ハ七サセシ
三、トナイキス	左	一デシヤキナ		五九サセシ
四、ウラントマリ	左	一デシヤキナ 五〇平方サセシ		九三サセシ
五、トマラオ	左	一デシヤキナ 三、三二平方サセシ		一一九サセシ
六、ヌモストマリ	左	一デシヤキナ		五八サセシ
七、ラクマカ	左	二デシヤキナ		一三七サセシ
八、ポアコタン	左	一デシヤキナ 三、三六五平方サセシ		一七〇サセシ
九、ホロトマリ	左	二デシヤキナ 一、三五五平方サセシ		二〇〇サセシ
一〇、ウセントマリ	左	一デシヤキナ 一、三六〇平方サセシ		一八七サセシ
一一、クシエクタイ	左	一デシヤキナ		七〇サセシ
一二、アラクエ	左	一デシヤキナ 二、二五五平方サセシ		二一〇サセシ

一三	マウカ	左	三デシヤチーナ	一〇九五平方サゼン	左	二ニ五	サゼン
一四	ボシトマリ	々	一デシヤチーナ	二七〇平方サゼン	々	九	サゼン
一五	トムマイ	左	一デシヤチーナ		左	一〇	サゼン
一六	アキブシ	々	一デシヤチーナ	二〇四五平方サゼン	々	一三	サゼン
一七	テモトマリ	々	一デシヤチーナ		々	一〇	サゼン
一八	ビロツイ	々	二デシヤチーナ	三三五平方サゼン	々	二一	サゼン
一九	トマリボキス	々	一デシヤチーナ	五五〇平方サゼン	々	一三	サゼン
二〇	オゴルトマリ	々	一デシヤチーナ	四五七平方サゼン	々	二〇	サゼン
二一	タフネボ	々	一デシヤチーナ	三三五平方サゼン	々	一六	サゼン

地所區劃ニ要スル費用ハ賃借人ノ負担タルヘシ

但地所區劃ハ地方住民ノ居住所及其ノ産業ヲ侵害セサル

ヲ要ス

二、ツセメノスイ、デレヒハ其占有スル土地使用料トシテ壹壹平方サゼン

壘

四

ニ付壹哥ノ割合ヲ以テ國庫ニ納付シ且ツ賃借之最初
参々年間ニ全地區上ニ総價稅拾萬留以上ノ營業屋
舍ヲ造営スルヲ要ス

三漁業ヲ管ムニ當リ賃借人ハ賃借ノ第初年ヨリ規
則ニ依リ規定セラレタル税金及其他公課ヲ國庫ニ
納付シ且ツ毎年五千留以上ノ税金ニ対スル水産物
即チ壹萬「ポンド」以上ヲ製魚スルノ義務ヲ負ヒ尚ホ
「サカレ」嶋沿岸漁業ニ關シ官憲ノ制定シタル又ハ
制定セラル可キ規則ヲ遵守スヘシ

賃借人ハ毎年六月一日壹々年分ノ地所借入賃金及管
業年度ノ終リ迄ニ輸出シタル魚菜水産物並ニ裁伐
シタル木材及薪ノ各數量ニ應シ魚菜水産物木材及
薪ノ税金ヲ納付ス可シ

四 賃借人ハ自己使用ノ為メ地方住民ノ興産業及官
 憲ヨリ海藻採集^書其他一般漢業ノ權利ヲ附與セラ
 ル可キ凡テノ管業者及「ボクア」フニク^ルノ使用ヲ妨害スル
 ヲ得ズ

五 賃借人ハ借入ノ最初五ヶ年同ハ労働者教ノ控「プロ
 セント」^ル五ヶ年同ハ控五「プロセント」以上ノ露國臣民ヲ
 使用シ管業地ノ事務カ管理ハ常ニ露國臣民ノ手ニ
 依リテ為サルヲ要ス

六 衛生監督並ニ漢期中労働者ノ治療保護ノ為メ賃
 借人ハ自費ヲ以テ中央管業地タル「マウカ」ニ醫師^シ病舎
 調劑所及看病人ヲ置キ其他應急手当ノ為メ常
 ニ管業地ヲ巡回ス可キ壹人ノ看病人ヲ置カサル可
 カラズ

卷
 四

七、フセノフ、イ、デシビトシ貸附ニシテ人地所ハ農務國有財産務省
 ノ認可ヲ以テスルノ外ハ他人ニ讓渡ヲ許可セラレサルモ
 「セメノフ、イ、デシビ」ノ事業擴張ノ爲メ共同者ヲ採用スル
 事ハ禁セラル、フナシ
 八、借入契約期限拾ケ年経過ノ后ハ契約期限終結前シケ
 年以内ニ賃借繼續ノ希望ヲ申出タル場合ニ限り「セメ
 ノフ、イ、デシビ」ニ該当地所借入レ、新契約ヲ官憲ト締結
 スヘキ優先權ヲ附與セラル可シ此ノ場合ニ於テハ新契約
 ハ尚ホ拾ケ年同同一主要条件ノ下ニ締結セラル可シ但シ
 此ノ際ニ於テハ新賃借人ハ労働者中最初ノ五ケ年ハ
 其數ノ貳拾「プロセント」以上、后ノ五ケ年ハ貳拾五「プロセント」以上ノ
 露國臣民ヲ使用シ其他官憲ノ見込ニ依リ壹倍ヲ超過セ
 サル地所借入増税金ヲ納付スルノ義務ヲ有ス

九、賃借人の契約實行保全ノ担保トシテ金貳千五百圓ヲ國庫ニ納付スヘシ契約期限経過ノ后官憲ト契約ヲ繼續セザル中ハ六ヶ月以内ニ営業建造管物ヲ地上ヨリ除去スルヲ要ス若シ然ラザル場合ニ於テハ建造管物ハ無償ニテ官ノ所有ニ歸ス可キモノトス

契約期限内中契約抛棄ノ場合亦同シ

十、賃借人ハ后日墾農場ノ賃借ヲ保有セザルニ至リタル時ハ后継者ニ営業建築物ヲ相互恒定ノ上相當代價ヲ以テ之ヲ讓渡スヘク該后継者ハ必ズ之ヲ受理スルノ義務ヲ有スルモノトス

若シ賃借人ト后継者ト、同ニ該物ヲ關シ善意ノ恒議ノ調ハザル中ハ双方ヨリ賃借人地所ヲ保有セザルニ至リタル日ヨリ参考月以内ニ恒議不調ノ原因ヲ詳

細ニ具シテ此處龍江州國有財産管理所ニ届出シ可シ
 且ツ同時に其ノ撰定ニ及ル仲裁人ヲ指定スルヲ要ス
 然ルハ管理所自ラ調停ニ及他ニ調停ヲ委託シ該
 仲裁人ノ評價ニ自ラ建築物ノ價額ヲ決定セラル
 モノトス但シ官憲ハ斯カル建築物ヲ引渡シルヲ義務ナ
 キモノトス

十一 本契約ノ原本ハ「サカレ」嶋軍務知事官署ニ保存シ其
 謄本ヲ賃借人ニ交附ス

十二 本契約ハ賃借人ヨリ納付スル賃借料ニ比例ス可キ價額
 即チ去々年壹「サカレ」平方ニ付壹哥倍計叁拾「サカレ」ヤ
 チ「サカレ」平方百叁拾八平方「サカレ」拾々年総金額七千八
 百零叁留參哥ニ相当スル証券用紙ニ記載ス
 原本ニハ「サカレ」嶋軍務知事陸軍少將「リヤ」フ「記」

名訥印シ及ヒウラシオストロク^ク商人^ノヤコフ^ラガレウ^キツク、
セメノ^フハ自己^ニ並ニ^ウラジ^オストロク^ク商人^ノケ^オル^ハキ^ーウ^キク
ホウ^キチ^カレ^シト^キ年^任ニ^ヨリ^記名^請何^ス

原本ノ^騰本^ニハ^官署^代理^官理^官ノ^レイ^クス^ニ真^檢シ^代
理事^務官^ノビ^リユ^コフ^之ニ^副署^名ス

千九百五年五月十五日第^四九^三一^号ヲ^以テ^サカ^レレ^ル嶋^軍務^知事

官署^ヨリ^ウラ^ジオ^スト^ロク^ノ商人^ノヤ^コフ^セメ^ノフ^レニ^交附^シ証^明

商^ノ騰^本ト^本騰^本ト^ノ相^違ナ^キヲ^官印^押捺^ヲ以^テ証^明ス

登録^書ハ^百九^拾卷^ノヲ^以テ^記入^シ税^金参^照ヲ^徴收^ス

千九百六年六月六日

函館^区露^西帝^國副^領事^トウ^ウト^シヨ^ルド^署名

函館^区露^西帝^國副^領事^領事^領直^認欽^本相^之所^翻訳

監

印

This is to certify that the above translation has
been made by Shigetoshi Aizawa on the date
of the Imperial Russian Vice Consulate
at Vladivostok June 12th/25th 1906

W. W. W. W. W.
H. V. Russian Vice Consulate